

平成 15 年上半期における 漁海況の特徴

(漁海況とは、水温や潮流等の海の環境と漁模様の状況のことです)

海洋資源担当 住友 寿明

Key word; 海況, 海部沿岸, 紀伊水道, 漁況, 黒潮, 播磨灘

水産研究所では、漁業調査船「とくしま」による海洋観測を実施して海況情報を収集するとともに、標本とする漁協(8 漁協)に対して漁模様の調査をおこない主要な魚種の漁獲量を調べています。そして、これらのデータや人工衛星画像、水産研究所等の汲み上げ海水温を編集し、週間漁海況情報としてタイムリーな情報の提供をめざしています。また、年 3 回開催される長期予報会議における、太平洋海域の予報文作成の基礎データとして利用しています。さらに、これらのデータは主要な魚種の資源量の推定にも応用可能です。今回はこれらのデータの他に衛星情報等を加え、今年の上半期における徳島県の漁海況の特徴をまとめてみました。

まず、紀伊水道沖を流れる黒潮の流路については、次のとおりでした。

- ・ 室戸岬沖では、2 月末まで概ね接岸傾向で推移しました。3 月から 4 月上旬は「やや離岸」でしたが、その後、5 月下旬まで「かなり離岸」で、5 月末からは「やや離岸」で推移しました(図 1)。
- ・ 潮岬沖では 4 月上旬まで概ね「接岸」で推移しましたが、その後、5 月末まで「やや離岸」、6 月からは「接岸」で推移しました(図 2)。

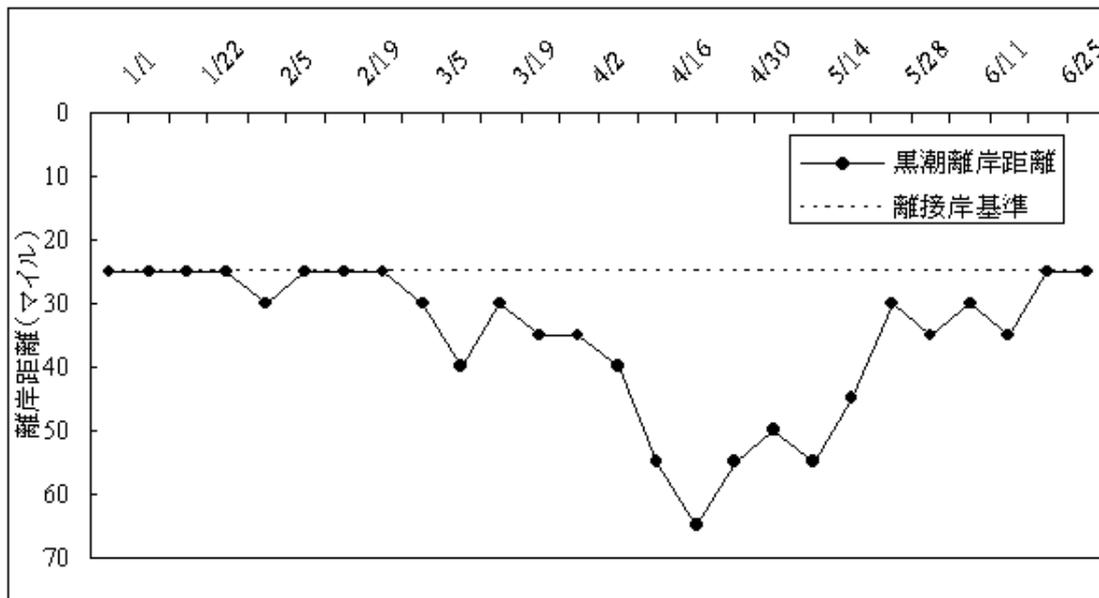


図 1 室戸岬沖の黒潮離岸距離(海上保安庁海洋速報 参考)

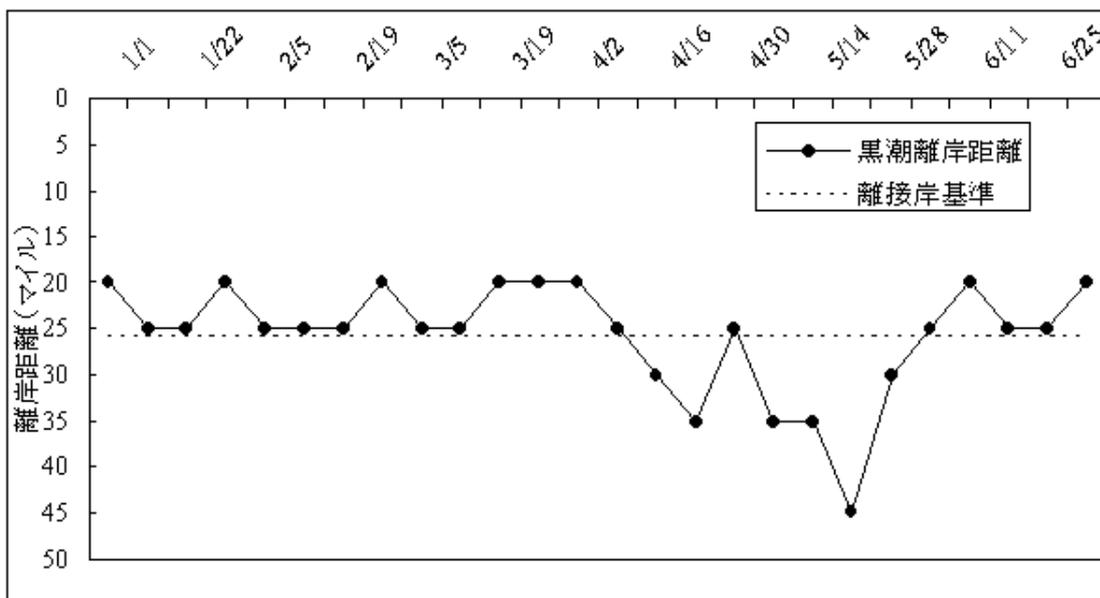


図2 潮岬沖の黒潮離岸距離 (海上保安庁海洋速報 参考)

黒潮の離接岸表現の基準は、室戸岬沖の場合、黒潮の流軸が岬の真南 25 マイル以内にある場合を「接岸」、25マイルから 45 マイルまでを「やや離岸」、45 マイルから 65 マイルまでを「離岸」、65 マイル以上を「著しく離岸」、潮岬沖の場合、黒潮の流軸が岬の真南 26 マイル以内にある場合を「接岸」、26 マイルから 56 マイルまでを「やや離岸」、56 マイルから 86 マイルまでを「離岸」、86 マイル以上を「著しく離岸」としました(川合(1972)黒潮と親潮の海況学・海洋物理学、東海大学出版会)。なお、主軸の位置については海上保安庁海洋情報部のデータを参考にしていますが、海上保安庁海洋情報部における主軸の位置の求め方については、まず黒潮の北縁を以下の5項目を総合的に解析して決定し(表面水温水平分布図を作成し、等値線の幅が混んでいる海域 表面海流矢符図を作成し、2 ノット以上の海域 200m 水温水平分布図を作成し、15~16 を目処に等値線が北側に混んでいる海域 遠州灘に発生する冷水渦の南方 そのほかに人工衛星の海面高度計のデータなど)、黒潮北縁から 13 マイルの所を黒潮の最強流速帯として黒潮の流軸としています。

黒潮に伴う黒潮分枝流の状況は、2 月末まで紀伊水道外域和歌山県側から暖水が波及し、反時計回りの流れがみられました。3 月は室戸岬沖の黒潮が離岸するに伴い、紀伊水道外域徳島県側からも暖水の波及がみられました。その後、紀伊水道外域の黒潮分枝流は西向きまたは反時計回りの流れが中心でしたが、4 月下旬から 5 月末にかけて、一時的に紀伊水道内部和歌山県側を中心に暖水の波及がみられました。

海洋観測による水深 10m 層の水温については次のとおりです(表 1)。

表 1 平成 15 年上半期における徳島県周辺海域の海区平均水温

海区		2月	3月	4月	5月	6月
播磨灘	本年値	8.28	8.72	10.38	13.61	17.43
	平年値	9.08	8.63	10.12	13.76	17.11
	偏差の目安	やや低め	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
紀伊水道	本年値	11.44	13.05	15.37	16.84	19.74
	平年値	11.73	11.33	12.92	15.97	18.57
	偏差の目安	平年並み	高め	かなり高め	やや高め	高め
海部沿岸	本年値	15.83	18.01	17.84	20.42	23.07
	平年値	16.22	15.81	16.76	19	21.07
	偏差の目安	平年並み	かなり高め	やや高め	高め	かなり高め

- ・ 播磨灘海区(鳴門市北灘町沖)では、2月に「やや低め」でしたが3月以降は「平年並み」でした。
- ・ 紀伊水道海区(紀伊水道内)では、2月が「平年並み」、3月が「高め」、4月は「かなり高め」、5月は「やや高め」、6月は「高め」であり、3月以降高い傾向にありました。
- ・ 海部沿岸海区(紀伊水道外域徳島県沿岸)では、2月が「平年並み」、3月が「かなり高め」、4月は「やや高め」、5月は「高め」、6月は「かなり高め」で、紀伊水道海区と同様に3月以降高い傾向にありました。

水温の偏差の目安として用いられる「やや高め」、「平年並み」等といった表現は、平年偏差と比較して統計的処理を行ったものです。なお、1月は漁業調査船が船体検査でドック入りしていたため観測できませんでした。

漁況については、マイワシが平年比4%、シラスを除いたカタクチイワシが平年比30%、ウルメイワシが平年比20%、マアジが平年比28%、サバ類が平年比44%の漁獲量にとどまり不漁でした。そのほか、イカナゴも平年比10%で不漁でした。いっぽう、今春における紀伊水道のシラス漁は豊漁で、とくに4月の漁獲量は平年の約4倍近くでした。また、3月下旬から5月下旬にかけて徳島県の太平洋側でカツオが豊漁でしたが、魚体は小さいものが中心でした。さらに、ハモとブリも豊漁でした。その他、目立ったところでは、海部郡の標本とする大型定置網で4月中旬から5月下旬にかけてヒラマサが、5月中旬から下旬にかけてイボダイ(徳島ではボウゼと呼ばれています)がまとまって入網したことがあげられます。

長期予報会議の徳島県周辺海域における予報や週間漁海況情報、海洋観測の結果については当ホームページに掲載していますので興味のある方はみてみませんか。